（第三種郵便物認可）　【朝刊月ぎめ定価3,093円（本体価格2,864円 消費税229円）1部売り税込140円】　河北

津波の記憶 20代がつなぐ

南三陸 語り部バスに2新人

「災害はわがこと」訴え

東日本大震災で被災した宮城県南三陸町で9日、当時は子どもだった20代の2人が語り部バスのガイドを初めて務めた。震災から11日で8年。津波に襲われた古里を県内外から訪れた約50人とともに巡り、自身の被災体験や復興道半ばの町の現状を伝え、風化の防止と次の災害への備えを訴えた。

語り部バスのガイドを務めたのは、町観光協会職員の佐藤慶治さん(25)と阿部悠斗さん(22)。2人とも町内で生まれ育ち、被災当時はそれぞれ志津川高2年、歌津中2年だった。

佐藤さんは志津川地区の自宅が津波で流失。慣れ親しんだ通学路や友達の家があった町並みは一変した。

震災後に約10㍍かさ上げされた同地区の中心市街地をバスが通ると「当たり前だった風景は今は記憶の中にしかない。青春の思い出が詰まった場所がないのは悲しい」と話し掛けた。

旧戸倉中ではバスを降りて津波の猛威に触れた。現在は公民館として使われている校舎1階の窓に津波到達高「22・6㍍」を示す張り紙がある。校舎に車が流されてきた写真を掲げ「震災は想像を超える被害だった」と語った。

起業準備のため今月末で退職するが、語り部は続けるつもり。「町の姿は変わったけれど、古里に変わりはない。大人になった自分たちが町のためにできることを考えていきたい」と佐藤さんは話した。

町観光協会が企画・運行する語り部バスのガイド9人は60～70代。若手ガイドの育成を目指す協会が今回初めて、町歩きのガイドでは実績のある2人に白羽の矢を立てた。

在校中に被災した阿部さんは、同校への避難所設営に中学生が尽力したことを紹介。震災直後の情報収集や携帯電話の充電に、授業で作っていた充電器付きのラジオが大いに役立ったエピソードも披露した。

子どもの頃は、同級生の間でも震災について話すことは避けていたという阿部さん。だが、大人になって考えが変わった。「自分が体験を伝えることで、災害を人ごとではなく、わがこととして捉える人が増えてほしい」と語る。

戸倉地区の津波被害の状況を語る佐藤さん

バスの車内で語り部を務める阿部さん

航行中に何らかの物体と衝突した高速船から、負傷者を搬送する消防隊員ら＝9日午後5時17分、新潟県佐渡市

人が乗っていた。乗客の新潟市西区の50代男性は「大きな音がして、がつんという衝撃を受けた」と事故の

高速船を運航する佐渡汽船の担当者は「クジラに衝突したと思うのですが…」と困惑した様子だった。

東日本大震災8年

の乳児用液体ミルクの店頭販売が東日本大震災から8年となる11日からスタートする。水や電気がなくても

は粉ミルクと同様に災害物資と位置付け、後押しする方針。過去の災害では海外製品が敬遠された例もあ

移すだけで飲めできる。希望小本216円で、ミルクとの同4倍程度の出治も近く発売内閣府は普「男女共同参の防災・復興針」に液体ミ関する説明を中に加える考クは群馬県渋文京区、大阪蓄方針を示し府は先行例を料で紹介する厚生労働省は

▼福岡の女性

ギネスワール9日、福岡市在

田中さん

齢」に公式認定の認定員が田中市東区の老人ホ定証を授与する涙を浮かべながらございます」と べた。

田中さんは、しかった出来事れると「今」とった。授与式には宗一郎市長も同長寿おめでとう祝福し、お祝い状ギネス社は、